

## スーパーFJ ジャパン・チャレンジ 第6回

富士スーパーFJ選手権 第5戦

2019年11月17日 天候:晴れ 参加7台



木下藍斗選手がタイトル争いで小村方喜章選手を一步リードして臨んだ最終戦。

今回は「S-FJ ジャパン・チャレンジ」の最終回ということもあって、年間ランキング2位を狙って女性ドライバーの下野璃央選手がエントリーしてきたが、この週末は全国各地でS-FJレースが行われている影響なのか、レギュラー以外のドライバーは、その下野選手だけだったのが少々残念ではあった。

だが、下野選手がレースの盛り立て役になったのも間違いない。まず土曜日に行われた練習走行では、木下選手と小村方選手を抑えてトップタイムを打ち立てていたからだ。最後に勝ってチャンピオンを決めたいと思っていた、ふたりにとって少なからぬプレッシャーになっていたのは間違いない。

### 《予選》

天候には恵まれたものの、注目の予選は朝8時からのスタートとあって、冷えた空気がエンジンを回したものの、冷たい路面がなかなか本領発揮を許ささない。それでも周回を重ねると、それぞれタイムを縮めていき、最初に1分53秒台に叩き込んだ木下選手が、終了間際にスリップストリームが使えることもあって、1分53秒348をマークしてトップに躍り出た。ところが、タイ

ミングモニターの下には「走路外走行検証中」という不穏な文字が……。

結局、タイムは有効とされたものの、木下選手は3グリッド降格のペナルティを受け、1分53秒376を記録していた下野選手がポールポジションを獲得。これに小村方選手と、やはり女性ドライバーの村松選手が続くことになった。

「富士のレースは初めてですが、練習には1回来ています。思ったより木下選手がタイムを出していたので、ちょっと焦っていたんですけど、最後の周で同じぐらいのタイムを出せたので、行けたかなと思ったんですが、電光掲示を見たら2番手だったから、ちょっと悔しいです。でも、あちらが落ちてしまったので、ちょっと気分的には楽になりましたね」(下野選手)



「こんなに朝早くに走ったことがなかったので、路面温度が低くて最初のうちは滑っちゃって。全然攻められずにいたんですが、タイヤが温まっていて、だんだん攻められるようになったところで、ちょっとコココーナで頑張りすぎて、飛び出していました。最後にスリップストリームが使えたので、いいタイムが出せたんですけど……決勝はまずスタートで前に出て、着いていってから逆転します！」(木下選手)



## 《決勝レース》



12周で争われる、決勝のスタートは 11 時 10 分。さすがにだいぶ陽が昇ったこともあり、温度も程よい状況に転じていた。さて、ペナルティを受けていた車両がもう1台。5 番手タイムを記していた野村大樹が最低地上高違反で全タイム抹消となり、最後尾スタートを強いられていた。

最も注目すべきは、木下がオープニングラップのうちどこまで順位を上げられるか？ 前回のダブルヘッダー大会を連勝し、第3戦は逆転勝利ただけに、大いに期待がかかったもの。

ところが、オープニングラップの順位は予選とそのまま。それどころか早々に下野が逃げの構えに打って出て、コンマ8秒のリードを奪う。2周目の1コーナーでは村松が前に出るが、これに木下は続くことができません。だが村松はマシンを入れ替え、今回がシェイクダウンということもあって、なかなか思うようにペースを上げられず、3周目のストレートで小村方の再逆転を許したばかりか、ヘアピンではついに木下の先行も許してしまう。



ようやく小村方との直接対決に持ち込んだ木下は、硬いガードに阻まれながらも、7周目の1コーナーでようやく2番手に浮上。だが、その時すでに下野は6秒以上先方を走っており、なんとか後続を引き離した木下だったが、その後もさらに差を広げられてしまう。一方、3番手争いは最後まで激しく繰り広げられ、最終ラップの1コーナーで一旦は村松が前に出たが、ヘアピンで再逆転を許してしまう。

その結果、チャンピオンは木下が獲得したが、小村方も維持の表彰台に上がることとなった。

女性ドライバーが年間2勝を、しかも異なるサーキットで挙げたのはスーパーFJの先駆者、2010年の神子島みか以来だ。また、下野はこの勝利によってS-FJ ジャパン・チャレンジで、チームメイトである荒川麟に次ぐランキング2位も獲得した。



「チームから何秒離れてこいとかは言われませんでした。ずっとプッシュして走っていました。それで勢い余って何回かコースをはみ出して、タワーに呼ばれたりもしたんですが(笑)。11秒も離せて、すごく満足です。オートポリスで勝った時は4秒とか5秒だったので、その時の倍以上も離せて良かったです。ジャパン・チャレンジでも(荒川と)ワンツーです。あとは日本一決定戦！ 目標はトップ 10 です。いや、表彰台を目指します！」(下野選手)

「下野選手は速かったですね。オープニングの数周でペースを上げられなくて、そこで詰まっちゃったのが、あれだけ離れてしまった理由だと思います。まだ車幅の感覚が、去年まで乗っていたカートよりスーパーFJ は大きいので、そこがまだまだ……。なので、チャンピオンという実感はあんまりないですけど、応援してくれる家族やチームのためには良かったと思います」(木下選手)





# Fuji Champion Race Series Rd.6

11/16.17

No 19

富士SUPER FJ地方選手権シリーズ 第5戦

## SUPER FJ 公式予選

2019/11/17 9:45



### 正式結果表

Weather : Fine  
Track : Dry

Fuji Speedway(4,563m)

Pos	No	Name	Car	Type	Best Time	Lap	Gap	Ave. km/h
*1	1	30 木下 藍斗	マルQ・カレ茶・ED・10V		1'53.348	11		144.924
	2	34 下野 璃央	Drago CORSE 10V		1'53.376	11	0.028 0.028	144.888
	3	36 小村方 喜章	アルト玉三郎GIA湯田上ED	RD10V	1'54.511	11	1.163 1.135	143.452
	4	58 村松 日向子	Rn-s制動屋KK-S2	KK-S II	1'54.709	10	1.361 0.198	143.204
	5	22 高橋 三徳	RCITwithRaiseUP	KK-S II	1'56.780	10	3.432 2.071	140.664
	6	38 羽場 智哉	新潟国際自動車コースEDKKS	KK-S	1'59.207	10	5.859 2.427	137.801
***** 以上予選通過 (2'27.868 - 130%) *****								
*2	8	野村 大樹	WRS NOMURA 10V	RD10V	-	11		



# Fuji Champion Race Series Rd.6

11/16.17

No 31

富士SUPER FJ地方選手権シリーズ 第5戦

## SUPER FJ 決勝レース

2019/11/17/12:20



### 正式結果表

Weather : Fine  
Track : Dry

Fuji Speedway(4,563m)

Pos	No	Name	Car	Type	Lap	Total Time	Ave. km/h	Gap	Best Time	Lap
1	34	下野 璃央	Drago CORSE 10V		12	22'48.987	143.191		1'53.534	11
2	30	木下 藍斗	マルQ・カレ茶・ED・10V		12	23'00.354	142.012	11.367 11.367	1'54.086	4
3	36	小村方 喜章	アルト玉三郎GIA湯田上ED	RD10V	12	23'03.045	141.736	14.058 2.691	1'54.424	4
4	58	村松 日向子	Rn-s制動屋KK-S2	KK-S II	12	23'03.122	141.728	14.135 0.077	1'54.341	11
5	8	野村 大樹	WRS NOMURA 10V	RD10V	12	23'19.386	140.081	30.399 16.264	1'55.676	11
6	22	高橋 三徳	RCITwithRaiseUP	KK-S II	12	23'42.378	137.817	53.391 22.992	1'56.691	3
7	38	羽場 智哉	新潟国際自動車コースEDKKS	KK-S	12	24'05.821	135.582	1'16.834 23.443	1'58.361	12
***** 以上完走 (規定周回数 10Laps) *****										

